

Japan Inclusive Football Federation

ANNUAL REPORT 2024

一般社団法人 日本障がい者サッカー連盟
年次報告書 2024



サッカーなら、 どんな障害も 超えられる。

日本の人口の9.2%は障がい者です。
その障がいは多様で、
ひとつとして同じ在り方はありません。
障がいがあっても、いつでも、どこでも、
サッカーを心から楽しめる環境を。
社会にある“障害”を超えていく
きっかけづくりも、サッカーならできる。
私たちはそう信じて、活動しています。



CONTENTS

3 会長あいさつ

SPECIAL

4 障がい者サッカー日本代表の躍動

TOPICS 01

8 サッカー界組織横断での アクセス・フォー・オール宣言

TOPICS 02

11 障がい者サッカーを活用した DEI推進の取り組みが拡大

12 2024年度事業報告

15 2025年度事業計画

16 JIFFパートナー制度 パートナー／支援団体／助成団体一覧

18 JIFF概要

19 財務報告

本連盟が設立され10年目を迎えました。国内の障がい者サッカーの発展、日本サッカー協会（JFA）をはじめとするサッカーファミリーとの連携がより強固になる中、共生社会の実現に向けた活動は着実に前進しています。

JFAサッカー日本代表ユニフォームを着用した 障がい者サッカー日本代表が躍進

2023年度から障がい者サッカー日本代表によるJFAサッカー日本代表ユニフォーム着用が順次開始され、各

カテゴリーの日本代表チームが引き続き活躍しています。デフサッカー男子日本代表とソーシャルフットボール日本代表がアジア大会で優勝。ソーシャルフットボールは初のアジア大会を大阪で開催し、国内で障がい者サッカー日本代表の試合を観戦する機会をつくることもできました。

誰もが、いつでも、どこでも楽しめる サッカーとの出会いの場を拡充

JIFF設立初年度から毎年開催している「インクルーシ

サッカーから 共生社会の実現を

一般社団法人
日本障がい者サッカー連盟 会長
北澤豪



ブフットボールフェスタ」内の「障がい者サッカーチャレンジひろば」では、新たに「ガールズコース」を設けました。また、チャレンジひろばを個別のプログラムとして東京都港区内で展開し、定期的に障がい当事者が活動できる場をつくるとともに、JIFF登録指導者が当事者と一緒に活動する機会としても活用しました。

サッカー界組織横断での 「アクセス・フォー・オール宣言」

新たな動きとして2024年4月には「グラスルーツからエリートまで誰もがサッカーの『する』『見る』『関わる』にアクセスできる多様な『機会』と『選択肢』を持続的に確実に届ける」ことを目指した「アクセス・フォー・オール宣言」

をサッカー界組織横断で発表しました。JIFFでも「する」「見る」「関わる」の観点から事業を整理し、JFA、Jリーグクラブ、JFLクラブ等と連携した「見る」環境整備の取り組みを開始しました。「関わる」取り組みのひとつとして、障がい当事者が指導者や審判の講習会等を受講する際のアクセシビリティ費用を補助できる制度を拡充しました。また、サッカー界における障がい者雇用促進に向けて、準備を進めています。

今後も、国内の障がい者サッカーとサッカーファミリーおよびスポーツ界との連携を深め、共生社会実現に向けて活動してまいります。益々のご理解とご支援をよろしくお願いいたします。



ソーシャルフットボール 初のアジア大会を大阪で開催 日本代表が優勝



©JSFA/C.MATSUMOTO

日本ソーシャルフットボール協会（JSFA）は、2025年1月14日（火）から18日（土）の5日間にわたり、堺市立大浜体育館（大阪府堺市）で「第1回精神障がい者フットボールアジア大会 Dream Asia Cup」を初開催しました。

日本、台湾、韓国の3チームが出場し、総当たりでの予選を実施後、上位2チームによる決勝戦が行われました。また、親善試合には参加国による合同チーム「Dream Asia United」も出場し、国を超えた選手・関係者の交流にもつながりました。

ソーシャルフットボール日本代表は予選リーグを2連勝で1位通過し、韓国代表との決勝戦では27-3で勝利してアジア大会の初代王者となりました。

全自分、代表。



「ソーシャルフットボール」の意義や価値を表現するため、選手へのヒアリングをもとにコピーやビジュアルを作成

した。また、石田嵩人選手（背番号10）が大会MVPに選出されました。

本大会の実現に向け、JIFFおよびJSFAは日本サッカー協会（JFA）と連携し、国内で実施する障がい者サッカーの国際大会としては初めてAFC Dream Asia Foundation（マレーシア・クアラルンプール）からの助成を得て開催することができました。

また、大会にあわせて1月17日（金）には本大会の参加国並びにアジアオセアニア地域の精神障がい者スポーツ関係者による「精神障がい者スポーツ国際シンポジウム」、1月16日（木）には精神障がい当事者、支援者、企業担当者、精神科医を対象とした「メンタルヘルス支援に関するシンポジウム」も同じく大阪府堺市内で開催しました。身体障がい者および知的障がい者スポーツに比べて遅れている精神障がい者スポーツの国際的発展・連携を進めるとともに、メンタルヘルスにおける回復サポートツールとしてフットボールの活用を推進するなど、精神障がい者フットボールを通じてメンタルヘルスに関する課題解決や共生社会づくりの加速を目指す中、アジア大会の初開催は大きな一歩となりました。

デフサッカー男子日本代表がアジア制覇

2024年11月30日（土）から12月8日（日）にかけてマレーシアで「第10回アジア太平洋ろう者競技大会」のサッカー競技が開催され、デフサッカー男子日本代表が優勝しました。

日本は予選Bグループを2勝1敗の2位で通過すると、準決勝では延長戦の末イラクに3-1で勝利し決勝戦へ進出。予選リーグ初戦で敗れているイランとの対戦となった決勝では前半で3ゴールを決め勝利しました。日本はアジア王者として、2025年11月の「東京2025デフリンピック」に臨みます。



©JDFA

ブラインドサッカー男子日本代表が パリ2024パラリンピックへ出場

2024年8月28日（水）から9月8日（日）にかけて開催された「パリ2024パラリンピック競技大会」において、9月1日（日）から9月7日（土）にエッ

フェル塔スタジアムでブラインドサッカーの試合が行われました。前回大会（東京2020大会）5位の

ブラインドサッカー男子日本代表は、予選グループBでアルゼンチン、モロッコ、コロンビアと対戦。いずれも0-1で惜敗し、4位となった日本は7位決定戦に進みトルコと対戦しました。前半を0-0で終え、後半も激しい攻防を繰り返しますがトルコにゴールを許し、0-2で敗戦となりました。この結果、日本は8位で大会を終えました。



©Haruo.Wanibe/PK

東京大会に続き 出場3チームによる 応援プロモーションを実施

第33回オリンピック競技大会／第17回パラリンピック競技大会（2024／パリ）では、東京大会に続きU-23 日本代表、なでしこジャパン、ブラインドサッカー日本代表の各チームが同じユニフォームを着用しました。応援してくださるすべての方とともに、メダルを獲得する瞬間を目指して戦い進んでいくという決意を込め、JFAはプロモーションのコンセプトとして「ともに掴もう、最高の瞬



間を」を掲げ、一丸となって大会に臨みました。大会前には応援施策として、サッカー文化創造拠点“blue-ing!”でパリオリンピック・パラリンピックに挑む3チームを後押しするため、特別展示や期間限定企画も開催されました。

2024 IFCPF CPサッカー女子ワールドカップ (2024 IFCPF Women's World Cup)

2024年11月14日～19日 スペイン



©JCPFA

USA、オーストラリア、アイルランド、デンマーク、日本の5カ国が出場し、総当たり戦のグループステージの後、上位チームによる決勝戦と3位決定戦が行われました。

CPサッカー女子日本代表はグループステージを1勝3敗で終え、銅メダル獲得をかけアイルランドと3位決定戦を行いました。前半9分に先制しましたが、その後は相手の勢いに押され1-6で敗戦となり、4位で大会を終えました。

2024 IFCPF CPサッカー男子ワールドカップ (2024 IFCPF Men's World Cup)

2024年11月9日～22日 スペイン

15カ国が出場し、4グループでのリーグ戦となるグループステージの後、決勝トーナメントおよび順位決定戦が行われました。

CPサッカー男子日本代表はグループステージでイングランド、カナダ、ブラジルと対戦し3敗で順位決定戦へ進みました。その初戦でスペインに敗れ、13位～15位決定戦でタイ、オーストラリアと対戦しましたが、1分1敗となり15位で大会を終えました。



©JCPFA

2024年度 障がい者サッカー日本代表 海外遠征・国際親善試合

- | | |
|------------------------|---|
| 2024年11月14日
～11月17日 | デフサッカー女子日本代表
国内強化合宿@福島Jヴィレッジ
トレーニングマッチ vsアメリカ代表 |
| 11月24日
～11月30日 | デフフットサル男子日本代表
タイ遠征(親善試合) |
| 12月10日
～12月17日 | デフサッカー男子日本代表
オーストラリア遠征(親善試合) |



©JDFA

- | | |
|----------------------|------------------------------------|
| 12月13日
～12月17日 | デフサッカー女子日本代表
オーストラリア遠征(親善試合) |
| 12月14日
～12月24日 | 知的障がい者サッカー男子日本代表
アルゼンチン遠征(親善試合) |
| 2025年1月21日
～1月28日 | デフフットサル女子日本代表
スペイン遠征(親善試合) |



©JFFID

JFA日本代表パートナー とのDEI推進の取り組み



©JFA

JFAが取り組むJFAインクルーシブプログラム supported by MIZUHOは、年齢や性差、障がいの有無などにかかわらず、誰もが、安心・安全にサッカーを観戦できる環境づくりを目的に実施しており、その一環として、みずほフィナンシャルグループと共に障がい者のスポーツ観戦機会の増大を促す施策に取り組んでいます。

また、トヨタ自動車の取り組みである“Football & Mobility for All”プロジェクトに伴走する形として、普段スタジアムに来場できない方も観戦を楽しんでいただき、外に出て前向きに行動するきっかけを創出できるよう、JFA日本代表戦で障がいのある児童を招待する取

組をサポートしています。2024年は東京都や広島県の特別支援学校と連携し、3回の代表戦に肢体不自由や聴覚障がいのある生徒とご家族をご招待し、家族で観戦をお楽しみいただき、障がい者サッカー選手との交流も行いました。また地域の障がい者サッカー連盟とも連携し、障がい者サッカー体験会を行うことで多くの方に障がい者サッカーの認知、障がい者理解のきっかけの場をつくっています。



JFA OFFICIAL
TOP PARTNER



JFA OFFICIAL SUPPLIER



JFA MAJOR PARTNER



JFA NATIONAL TEAM
PARTNER





2024年4月、JIFFはJFA、Jリーグ、WEリーグ、Fリーグ、そして全国9地域・47都道府県のサッカー協会、JFA 各種加盟団体とともに、サッカー界組織横断で「アクセス・フォー・オール宣言」を発表しました。この宣言は、グラスルーツからエリートレベルまで、誰もがサッカーの「する」「見る」「関わる」にアクセスできるようにするための行動指針で、持続的かつ確実に、多様な「機会」と「選択肢」を届けることを目指しています。

取り組みを後押しする社会的な背景

「アクセス・フォー・オール」の取り組みを後押しする社会的背景の一つに、2024年4月に施行された障害者差別解消法の改正があります。この改正により、すべての民間事業者に対して、障がいのある人への「合理的配慮の提供」が義務化されました。スポーツ団体をはじめとする民間セクター全体にも拡大されたことで、分野を問わず社会的障壁を取り除き、障がいのある方の社会参加と自立を支える環境づくりが一層求められています。

また、サッカー界においても、国際的に社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）を推進する取り組みが求められています。国際サッカー連盟（FIFA）は、誰もがサッカーに参加し、関わることのできる環境づくりを重要な使命のひとつと位置づけており、障がいのある方の参画を支える制度や環境の整備、そして多様な機会の拡充を目的とした「Disability Football Toolkit」を発表し活用を促しています。

参照：障害者差別解消法で定められていること

項目	内容
1. 不当な差別的取り扱いの禁止	障害を理由として正当な理由なく、サービスの提供を拒否したり、制限したり、条件を付けたりしてはならない
2. 合理的配慮の提供	障害のある人から配慮を求める意思表示があった際に、負担になりすぎない範囲で、社会的障壁を取り除くために必要で合理的な配慮を行うこと
3. 環境の整備	個々の障害者に対して行われる合理的配慮を的確に行うための環境の整備として、実施に努めること (ハード面のみならず、職員に対する研修等のソフト面の対応も含まれる。)

これまで民間事業者は
「努力義務」にとどまっていたが、
2024年4月1日から
民間事業者も法的義務化された



アクセス・フォー・オール宣言とは？

グラスルーツからエリートまで
誰もがサッカーの
「する」「見る」「関わる」に
アクセスできる
多様な「機会」と「選択肢」を
持続的に確実に届けます。

1. 日本サッカー協会は、各リーグや9地域47都道府県サッカー協会、および各種加盟団体と共に、サッカーを愛するすべての人が全国の日常でサッカーにアクセスし、サッカーを楽しみ挑戦できることをサッカーファミリーの「あたりまえ」にしていきます。
2. サッカーを通じて、ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン（DEI）※を推進し、日本のスポーツ文化に変化を起こします。

※ダイバーシティ Diversity（多様性）、エクイティ Equity（公正）、インクルージョン Inclusion（包括性）、3つの頭文字をとって「DEI」とする

「アクセス・フォー・オール宣言」後の取り組み拡大

これまでのJIFFおよび障がい者サッカーの取り組みは、主に「する」機会を支える障がい当事者向けの活動や、「関わる」担い手となる指導者・審判の養成に注力してきました。今回の「アクセス・フォー・オール宣言」を契機として、既存の取り組

みを継続・発展させると共に、スタジアムでのサッカー観戦環境整備を通じた「見る」機会の創出や、サッカー界における障がい者雇用の促進といった「関わる」機会の拡充など、取り組みの幅をさらに広げていきます。

拡充

する

インクルーシブフットボールフェスタ開催／「チャレンジひろば」を通じて多様な参加機会の創出

JIFFでは、設立初年度から障がいの有無に関わらず楽しめる「インクルーシブフットボールフェスタ」を開催しています。同イベント内で障がいの特性や程度に応じて楽しめるサッカーとの出会いの場をつくるため開始した「障がい者サッカーチャレ

ンジひろば」では、2024年度から「ガールズコース」を増設。イベント外でも東京都港区を中心に定期的な単独プログラムとして展開するなど、障がいのある子どもたちが継続的に活動できる場の創出にも取り組んでいます。

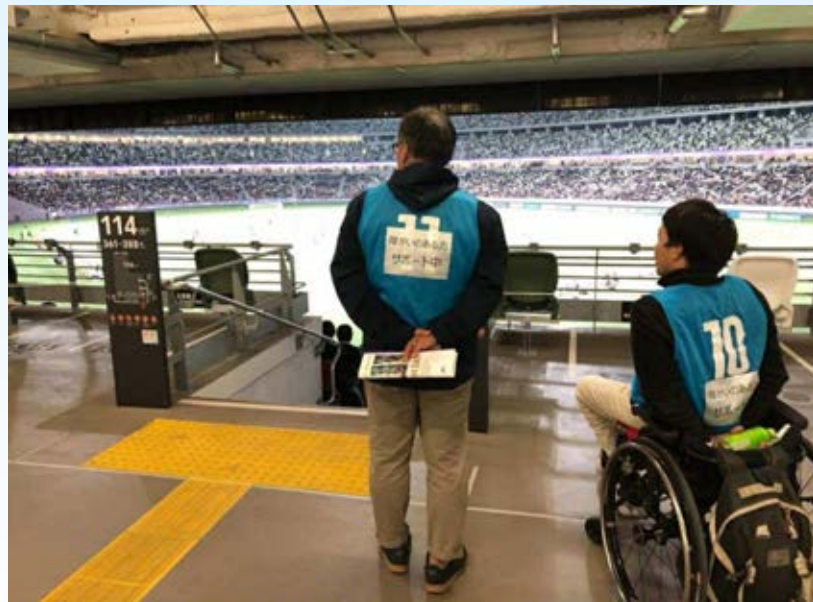


障がい者サッカーチャレンジひろばのガールズコース



東京都港区の「だれでもスポーツ開放事業」の中で「障がい者サッカーチャレンジひろば」を実施





国立競技場でのクリアソン新宿の観戦環境整備の取り組み

新規

見る

スタジアム観戦における 多様なアクセス機会の創出

JIFFとクリアソン新宿（JFL）が連携し、2024年11月11日に国立競技場で開催されたJFL第28節にて、JFAの取り組みを事前視察し参考にしたが、観戦環境整備の実証的な取り組みを実施しました。既存の車椅子席に加え、リアルタイム実況を提供する視覚障がい者席、優先観戦席やカームダウン・スペースなど、刺激の少ない環境で安心して観戦できる知的・発達障がい者席を新設。障がい理解を深める啓発と共に、観戦時の物理的・心理的・情動的なバリアを取り除く取り組みを進めました。

拡充

指導者・審判講習における多様な参加・挑戦機会の創出

JIFFでは、聴覚障がい者がサッカー・フットサルの指導者講習会や審判講習会に健常者と同様に参加できるよう運用してきた「手話通訳費用補助制度」を「JIFFアクセシビリティ補助制度」として拡充しました。手話通訳費用に加え、車椅子利用者のための簡易スロープのレンタル、視覚障がいや車椅子利用者に配慮した追加スタッフの人的費なども補助対象とし、障がいのある方が経済的・心理的な負担を抱えることなく指導者や審判としても挑戦できる環境づくりを進めています。



指導者講習会の様子

予定

サッカー界における多様な就労機会の創出

JIFFでは、サッカー界における障がい者雇用の促進に向けて、障がい者サッカー選手の就業実態調査や、協会・リーグ・クラブ等における雇用状況の把握、障がい者が担える業務の可視化を進めて

いきます。これらをもとに、サッカー界から「雇用促進」「職域拡大」「賃金向上」のロールモデルをつくり、障がいのある方の安定した雇用の創出と活躍の場の拡大を目指します。

02 TOPICS

障がい者サッカーを活用した DEI推進の取り組みが拡大

JIFFでは、障がい者サッカーを支援いただくだけでなく、パートナー企業・自治体とも連携し、研修・体験・講演等の障がい者サッカーを活用したDEI推進の取り組みを行っています。共生社会実現に向けて、強化・育成・普及活動等の障がい当事者向けだけでなく、社会のマジョリティである障がいのない方向けにも取り組んでおり、その活用が広がっています。

ナブテスコ株式会社

障がい者への理解を深めるとともに、障がい者サッカーを知り、体験する機会を提供する目的で、グループ社員と家族を対象として、2024年10月に「ナブテスコ インクルーシブ イベント」をblue-ing!（JFAサッカー文化創造拠点／東京都文京区）で開催しました。企業に所属するアンパティサッカー選手のほか、2025年に「東京2025デフリンピック」が開催されることもあり、デフサッカー選手を招いて障がい者サッカー選手の座談会や、それぞれの競技の体験会を開催しました。体験後のランチ交流会では社員と選手が談笑する場面もあり、楽しみながら学ぶイベントとなりました。



座談会で障がいや障がい者サッカーを知った後、実際に体験することでより深い学びに

株式会社オープンアップグループ

特例子会社を含めたグループ全社を対象としてウォーキングフットボール大会を2023年より開催しています。初回は会社ごとの対戦のみでしたが、2024年の同イベントではグループ会社横断でまぜこぜチームを編成した試合も取り入れ、参加者全員で楽しみながら、パーパス実現の推進とグループの連携強化を図りました。



約100名が参加して交流を深めました



© 藤枝パラフットボールフェスティバル with 藤枝MYFC 実行委員会（NPO法人 静岡FIDサッカー連盟、住友ベークライト株式会社、株式会社藤枝MYFC）

住友ベークライト株式会社

JIFF経由で地域の障がい者サッカー関連組織と連携し、障がい者サッカーを「知る、見る、やってみる」機会を創出することで、地域の未来に夢を提供することをテーマにイベントを実施しました。イベント前には、社員に対し講習会を実施し、事前に障がいや障がい者サッカーに対する理解を深め、当日は社員のほか特別支援学校の子どもたちも参加してアンパティサッカー体験会とまぜこぜウォーキングフットボールを行いました。

2024年度は、デフサッカー男子日本代表およびソーシャルフットボール日本代表がアジア大会で優勝するなど、日本の障がい者サッカーが国際的に活躍した年となりました。各団体および日本代表チームに対しては、アイデンティティの浸透、適切な活動費分配、マーケティングおよび情報発信に関するガイドライン遵守の徹底を継続しました。さらに、国内での公式国際大会開催に向けた資金確保や運営支援を行い、JFAとの連携を深めることで、国内での強化・普及の場を広げました。

事業面では、既存事業の深化と新規の取り組みを両輪で推進しました。2016年度から継続している「インクルーシブフットボールフェスタ」では、2023年から始まった「障がい者サッカーチャレンジひろば」に新たに「ガールズコース」を設

置。加えて、チャレンジひろばを東京都港区内で定期的に実施し、障がい当事者が継続的に活動できる場を提供するとともに、JIFF登録指導者が当事者と共に活動する機会としても活用しました。

新たな取り組みとしては、2024年4月にサッカー界全体で「アクセス・フォー・オール宣言」をもとに、「する」「見る」「関わる」の視点で事業を整理。JFAやJリーグクラブ、JFLクラブなどと連携し、「見る」環境の整備を進めました。また、「関わる」取り組みの一環として、障がい当事者が指導者・審判講習会を受講する際のアクセシビリティにかかる費用を補助する制度を拡充。サッカー界における障がい者雇用促進に向けた準備も進めています。

組織基盤強化事業

1

JIFFパートナー制度の充実

JIFFの理念・活動に共感いただいた企業と共に、広くサッカーを通じて、障がい者と健常者が混ざり合う共生社会を築いていくためのパートナー制度を運用しました。JIFFパートナー、賛同パートナー、教育コンテンツ開発パートナー、教育プログラムの事業協賛、みなと地域連携パートナーについて、パートナーシップ契約を更新または新規に締結しました。パートナー企業同士の連携も進んでおり、「JIFFパートナー連携会議」を継続開催しました。

※詳細は本紙16～17頁参照

障がい者サッカーに関する相談窓口の運用

障がい者サッカーに関する様々な相談や問い合わせを受け付け、必要に応じて関係する団体と情報共有しながら、解決に導くように対応しました。主に競技参加や「JIFF指導者登録制度」についての問い合わせなどがありました。

【業務時間】月曜日から金曜日の10:00～17:00（祝日は除く）

障がい者サッカー共同事務局の充実

社員の組織基盤の強化および活動のサポートのため、障がい者サッカー共同事務局をより活用しやすいよう充実させました。JIFF事務局内に共同事務局を設置し、問い合わせ一次対応、郵便物対応、情報整理・発信等に関する業務、JFAハウス利用に関する業務の対応が可能な体制で運用しました。

障がい者サッカー日本代表活動におけるJFAとの連携強化



©JSFA/C.MATSUMOTO

障がい者サッカー日本代表によるJFA日本代表ユニフォーム順次着用に伴い、引き続き日本代表アイデンティティ浸透のほか、活動費（ライセンス料）を分配し、マーケティングおよび情報発信に関するガイドライン遵守の徹底をはかりました。代表ウェアのクリーニング内製化にも取り組み、トライアル実施を開始

することができました。

また、ソーシャルフットボールのアジア大会（2025年1月・大阪府）開催にあたり、資金確保や運営、JFAとの連携等でサポートを行いました。

各種会議の開催

日本代表活動の活動費、ガイドライン等に関して等、マーケティング委員会を実施し協議を行いました。

コミュニケーション推進事業

2

障がい者サッカーの情報収集および発信

障がい者サッカーの認知度向上のために次のことを実施しました。

- ① 障がい者サッカーに関する情報収集
- ② 本連盟ウェブサイト（日本語版・英語版）の運用およびSNSの活用による情報発信の強化
- ③ JFAの広報ツール（公式サイト、JFAnews等）を通じた情報発信
- ④ デジタルサッカーメディア「ゲキサカ」を通じた広報およびマーケティング支援
- ⑤ 障がい者サッカー啓発動画の活用

個人向け資金調達の充実

ファン獲得のために次のことを実施しました。

- ① 個人寄付会員制度（JIFFサポート会員）の構築と運用
- ② キフティング（寄付×リフティング）活用の推進
- ③ ポイントや古本を通じた寄付等支援の仕組みの運用
- ④ 寄付型支援自動販売機の設置促進

フットボール連携事業

3

JFA公認指導者に対する障がい者サッカー活動への参加促進

JFAまたは都道府県サッカー協会が開催するリフレッシュ研修会（障がい者サッカーコース）の修了者に本連盟から「インクルーシブフットボールコーチ」「JIFF普及リーダー」の登録証を発行し、本連盟から障がい者サッカーの情報を伝えることで、障がい者サッカー活動への参加を促進しました。2024年度は新規で150名が登録し、累計840名（延べ人数）となりました。

手話通訳費用の補助制度の運用

JFAまたは都道府県サッカー協会あるいはそれらの傘下にある協会/連盟等が主催する指導者養成講習会および審判員養成講習会等に聴覚障がい者が不便なく受講できるようにするため、主催者等に対し手話通訳費用を補助する制度を継続して運用しました。2024年度は5件の制度活用がありました。

「JIFFインクルーシブフットボールフェスタ2024」の開催

東京都内のJリーグクラブ、Fリーグクラブ、WEリーグクラブ、Jリーグ百年構想クラブ、障がい者サッカーチーム等の協力により開催しました。障がい特性や程度に応じて楽しめる



サッカーを見つける「障がい者サッカーチャレンジひろば」を継続実施し、新たにガールズコースを設けました。

【開催日】2024年12月21日（土）
【開催方法】対面・オンライン同時開催
【会場】J-SOCIETY FOOTBALL PARK 多摩（東京都多摩市）
【内容】第1部 障がい者サッカーチャレンジひろば
第2部 まぜこぜサッカー／まぜこぜウォーキングフットボール／まぜこぜサッカーオンライン
【参加人数】174名

障がい者サッカーチャレンジひろば

インクルーシブフットボールフェスタ内から開始された「障がい者サッカーチャレンジひろば」を個別にも実施し、東京都港区を中心に定期的に障がい当事者が活動できる場をつくり、JIFF登録指導者の実践の場としても活用しました。

JIFFインクルーシブ推進WEEKs

10月6日の世界脳性まひの日および10月10日の世界メンタルヘルスデーに合わせて、2024年9月27日（金）～10月11日（金）の2週間にわたり「JIFFインクルーシブ推進WEEKs 2024」キャンペーンを実施しました。期間中は両国際デーを広く周知しながら、障がいおよびメンタルヘルスについての理解を深められる機会や、障がいのある人・子どもが障がい者サッカー競技や選手と出会える機会をつくるためのアクションを行いました。

【開催日・内容】
① 9月27日～10月6日：グリーンフォート
② 10月1日：精神障がいのある方を対象としたオンライン運動プログラム
③ 10月9日：障がいのある人・子どもを対象とした「障がい者サッカー選手交流プログラム」
④ 期間中：JIFFインクルーシブ教育プログラム「CPサッカー・ソーシャルフットボール」授業

全国障がい者サッカー連携会議

47都道府県内での障がい者サッカーネットワークの構築と地域に応じた障がい者サッカー活動を目的とした全国障がい者サッカー連携会議を開催しました。「アクセス・フォー・オール宣言」を契機に、新たにWEリーグおよびWEリーグクラブ、FリーグおよびFリーグクラブからも参加し、テーマも「する」だけでなく「見る」、女子サッカーにも広がり、現状共有と事例発表等を行いました。

【開催日】2024年10月17日（木）
【開催方法】オンライン開催 【参加者】約160名

東京都インクルーシブ連携会議

東京都内のサッカー協会Jリーグクラブ、Fリーグクラブ、WEリーグクラブ、なでしこリーグクラブ、Jリーグ百年構想クラブ、障がい者サッカーチームの連携を深めるため連携会議をオンラインで継続開催しました。

観戦環境整備の取り組み NEW

2024年4月サッカー界組織横断での「アクセス・フォー・オール宣言」を受けて、障がい者も同様にサッカー・フットサル観戦を楽しめる、「見る」環境整備の取り組みを開始しました。JFA、Jリーグクラブ、JFLクラブ等と連携し、障がい者席（知的障がい・発達障がい、視覚障がい、車椅子利用等）の運用や対応に関する好事例の視察および実践・水平展開のサポートを行いました。



©2024 Criacao

2024年度 事業報告

2024年4月1日～2025年3月31日

地域共創事業

4

小・中学校向けオンライン教育プログラムの実施

2024年度は事業化以降初めて対面授業（90分）を主とし、対面・オンライン合計で145件（対面授業128件、オンライン授業17件）を実施し、4,315人が体験しました。これまでのロービジョンフットサル（視覚障がい）、デフサッカー/フットサル（聴覚障がい）、CPサッカー（脳性まひ）、ソーシャルフットボール（精神障がい）、アンプティサッカー（切断障がい）に加え、知的障がい者サッカー/フットサルのプログラムを開発しました。累計体験者数が1万人を突破しました。

【実施授業数】145授業（2022年度から累計352件）
【体験人数】4,315人（2022年度から累計10,822人）



パートナー等向け研修・イベント等の実施

eラーニング研修プログラム「サッカーを通じた障害理解」（全70分）の受講促進、社員向けトークイベントやウォーキングフットボールイベント、障がい者サッカーを活用した体験型研修、ボランティア参画機会の提供等を、各種障がい者サッカー団体、選手、地域の当事者団体とも連携し実施しました。



「障がい者サッカーレガシーマッチ2025」の開催

2023年7月の港区、港区教育委員会、JIFFの3者による連携協力協定に基づき、引き続き「障がい者サッカー レガシーマッチ」を実施しました。港区内の小中学校での年間を通じて障がいや障がい者サッカーについて学ぶ取り組みとも連携をはかりました。新たに「障がい者サッカーチャレンジひろば」が行われました。

【事業名】障がい者サッカーレガシーマッチ2025
【開催日】2025年3月8日（土）
【会場】港区スポーツセンター
【会場協力】港区立芝浜小学校（同会場併設）
【実施内容】電動車椅子サッカー親善試合
ブラインドサッカー親善試合
障がい者サッカーチャレンジひろば
各種展示ブース（支援学級によるまんまるショップ販売ブース等）

【来場者数】1,244人



その他

5

東京都港区との連携

「スポーツを通じた地域社会の発展に関する連携協力協定」のもと、障がい者サッカーを活用した地域社会の発展と共生社会の推進の取り組みを継続しました。



パラフットボール財団との国際連携

障がい者サッカーの国際的な連携と普及・発展に取り組むパラフットボール財団（オランダ）と連携し、アフィリエイトFA（会員組織）登録を継続しました。

2025年度事業計画

2025年4月1日～2026年3月31日

組織基盤強化事業

1 障がい者サッカーに関する相談窓口

障がい者サッカーに関する様々な相談や問い合わせを受け付け、必要に応じて関係する団体と情報共有しながら、解決に導くように対応します。

2 障がい者サッカー共同事務局の充実

社員の組織基盤の強化および活動のサポートのため運用を開始した障がい者サッカー共同事務局をより活用しやすいよう充実させます。

3 関連組織の設置

加盟団体規程に基づき、国内における各種障がい者サッカー団体との連携を深めます。

4 JIFF パートナー制度・研修プログラムの充実

JIFF パートナー制度を効果的に運用し、パートナーを拡大することで、事務局運営基盤の強化および社員の活動サポートの原資を確保します。企業向け研修プログラム等を充実させ、オンラインおよび対面での実施を促進します。

5 コンプライアンス整備

JIFF と社員で構築したコンプライアンス連携体制を運用し、情報発信、会議、研修の企画実施等で整備を図ります。

6 各種会議の開催

社員の組織基盤強化や組織間の連携を図るための会議等を開催します。

6 障がい者サッカー日本代表活動におけるJFAとの連携強化

障がい者サッカー日本代表活動におけるJFA との連携を強化し、体制整備と基盤強化に取り組みます。また、日本国内での国際大会開催のためのサポートを行います。

コミュニケーション推進事業

1 障がい者サッカーの情報収集および発信

障がい者サッカーの認知度向上のために次のことを実施します。

- ① 障がい者サッカーに関する情報収集
- ② 本連盟ウェブサイト（日本語版・英語版）の運用およびSNSの活用による情報発信の強化
- ③ JFAの広報ツール（公式サイト、JFAnews等）を通じた情報発信
- ④ デジタルサッカーメディア「ゲキサカ」を通じた広報およびマーケティング支援

2 個人向け資金調達の充実

ファン獲得のために次のことを実施します。

- ① JIFFサポート会員（個人寄付会員制度）の運用
- ② キフティング（寄付×リフティング）活用の推進
- ③ ポイントや古本を通じた寄付等支援の仕組みの運用
- ④ 寄付型支援自動販売機の設置促進

フットボール連携事業

1 JFA公認指導者に対する障がい者サッカー活動への参加促進

JFAまたは都道府県サッカー協会が開催するリフレッシュ研修会（障がい者サッカーコース）の修了者に本連盟から「インクルーシブフットボールコーチ」「JIFF 普及リーダー」の登録証を発行し、本連盟から障がい者サッカーの情報を伝えることで、障がい者サッカー活動への参加を促進します。

2 アクセシビリティ補助制度の運用

JFAまたは都道府県サッカー協会あるいはそれらの傘下にある協会/連盟等が主催する指導者養成講習会および審判員養成講習会等に障がい者が同様に受講できるようにするため、主催者等に対しアクセシビリティ対応に関する費用を補助する制度を運用します。

3 インクルーシブフットボールフェスタの開催

共生社会の実現のため、障がい者も健常者も混ざり合ってサッカーを楽しむインクルーシブフットボールフェスタを開催します。開催地は東京、広島において継続（広島は地域主体での開催）。また、同イベント内で実施している「障がい者サッカーチャレンジひろば」を個別にも実施し、定期的に障がい当事者、指導者が活動できる場をつくります。

- ① 事業名：JIFFインクルーシブフットボールフェスタ2025
開催日：2025年12月（予定）
会場：J-SOCIETY FOOTBALL PARK 多摩（東京都多摩市）を予定
- ② 事業名：インクルーシブフットボールフェスタ広島2025
開催日：2025年6月7日（土）
会場：修道中学校 修道高等学校 体育館（広島県広島市）
- ③ 事業名：障がい者サッカーチャレンジひろば
開催日：定期開催（2ヶ月に1度程度） 会場：東京都港区 ほか

4 Warm Blue キャンペーンの実施

4月2日自閉症啓発デーに合わせて、自閉症の方だけでなくその他の障がいや難病のある方、LGBTの方など多様な方が混ざり合って楽しみながら普及啓発を行います。

- ① 事業名：Warm Blue 2025キャンペーン
～まぜこぜウォーキングフットボール～
（日本ろう者サッカー協会主催の「JAPAN FOOTBALL LIVE 2025」内で実施）
実施内容：自閉症の方も楽しめるサッカー、ウォーキングフットボール、キフティング等
実施日：2025年4月2日（水）
会場：国立競技場（東京都新宿区）
- ② 事業名：Warm Blue 2026キャンペーン
実施内容：自閉症の方も楽しめるサッカー、ウォーキングフットボール、キフティング等
実施日：2026年3月または4月予定 会場：会場未定

5 全国障がい者サッカー連携会議の開催

各地域において障がい者サッカーの連携を図るため、JFA とともに、全国障がい者サッカー連携会議を開催します。

6 観戦環境整備の実施

障がい者が安心してサッカー・フットサルの観戦を楽しめるよう、サッカーファミリー間で連携し環境整備に取り組みます。

地域共創事業

1 教育プログラムの実施

小・中学校向けにインクルーシブ教育プログラムを行います。新規障がい種別のプログラム開発、選手およびファシリテーターの育成、地域展開に取り組みます。

2 イベント等の受託

パートナー企業や自治体、関係団体等による障がい者サッカーおよびウォーキングフットボールを活用してのイベント等の事業受託を行います。

その他の事業

1 パラフットボール財団との連携

協力協定を締結しているパラフットボール財団（オランダ）と連携し、障がい者サッカーの国際的な普及・発展に取り組みます。

2 自治体との連携

協力協定を締結している東京都港区との連携を深め、社会価値の可視化に取り組みます。

3 新規事業の開発

環境に関する社会課題も視野に入れた価値共創、サッカー界での障がい者雇用促進に取り組みます。

4 次の10年に向けた取り組み

中長期計画策定や社会価値可視化に取り組みます。

パートナー／支援団体／助成団体

JIFFの理念・活動に共感いただいた企業と共に、サッカーを通じて共生社会を築いていくため、パートナー制度を設けています。本制度の概要および、2025年7月時点でのパートナー企業、ご支援、助成いただいている団体をご紹介します。

JIFFパートナー制度について

JIFFでは、ご支援・ご協力いただいている法人企業のみなさまを「パートナー」と呼んでいます。一方的な支援になりがちな障がい者スポーツですが、JIFFとパートナー企業は、JIFFが理念に掲げる「共生社会」を共に創り上げていく仲間です。障がいについて学ぶ機会や障がい者サッカーを通じて、ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンの大切さに気づく場の創出を目指し、JIFFパートナー企業向けに障がい者サッカーの体験・研修・講演のプログラムを実施しています。



パートナー企業／支援団体／助成団体一覧 ※2025年7月時点

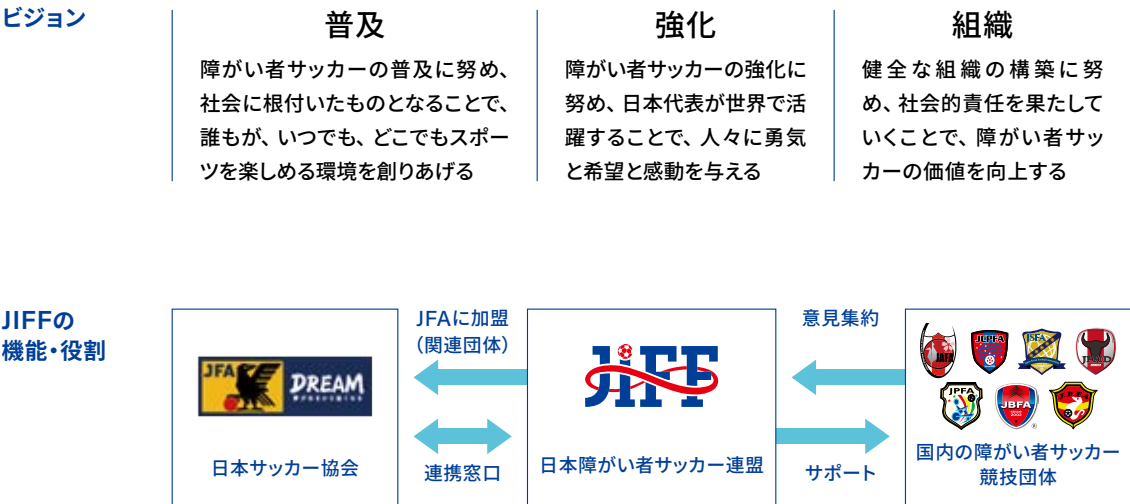
■ 支援団体  一般財団法人日本サッカー後援会  株式会社オープンアップグループ  クオールホールディングス株式会社  ナブテスコ株式会社  日本マクドナルド株式会社			■ 2024年度 JIFFパートナー／支援団体 主な掲載実績 7つの障がい者サッカー競技団体の全国大会やJIFFのイベント等において、JIFFパートナーや支援団体のロゴが入った横断幕の掲示や、大会プログラム等へのロゴ掲載を行っています。2024年度は右記の大会等において掲載しました。  パートナーおよび支援団体ロゴ入りの横断幕（最新版デザイン）  大会プログラム等に掲載する紹介ページ（最新版デザイン） 2024年4月 第5回ソーシャルフットボール全国大会（全国精神障がい者フットサル大会） 2024年5月 第九回レオピン杯Copa Amputee 2024年10月 第22回CPサッカー全日本選手権大会 2024年11月 第8回パワーチェアフットボール チャンピオンシップジャパン2024／第13回日本アンブティサッカー選手権大会2024／第19回全日本男子ろう者サッカー選手権大会 2024年12月 JIFFインクルーシブフットボールフェスタ 2024／第22回アクサ ブレイブカップ ブラインドサッカー日本選手権準決勝ラウンド 2025年2月 第22回アクサ ブレイブカップ ブラインドサッカー日本選手権 FINALラウンド 2025年3月 第22回全日本知的障がい者サッカー選手権大会'25チャンピオンシップ			■ 賛同パートナー  株式会社協同  株式会社クリエイティブヘッズ  株式会社丹青社  デル・テクノロジーズ株式会社  株式会社ワークプレイスソリューションズ			■ 教育コンテンツ開発パートナー  株式会社 マネジメントソリューションズ
--	--	--	---	--	--	---	--	--	--

JIFF概要

JIFFはJFAの関連団体で、JFAと協働し、国内の障がい者サッカー競技団体の活動をサポートする中間支援組織です。

理念

広くサッカーを通じて、障がいの有無に関わらず、誰もがスポーツの価値を享受し、一人ひとりの個性が尊重される活力ある共生社会の創造に貢献する



名称

一般社団法人 日本障がい者サッカー連盟
Japan Inclusive Football Federation

設立

2016年4月1日

役員

※2025年7月現在

会長	北澤 豪
副会長	佐々 毅 (特定非営利活動法人 日本ソーシャルフットボール協会) 神 一世子 (一般社団法人 日本CPサッカー協会)
専務理事	松田 薫二 (公益財団法人 日本サッカー協会)
理事	魚住 稿 (特定非営利活動法人 日本ブラインドサッカー協会) 荻野 芳貴 (一般社団法人 日本電動車椅子サッカー協会) 笹山 哲 (特定非営利活動法人 日本アンプティサッカー協会) 鈴木 宏和 (特定非営利活動法人 日本知的障がい者サッカー連盟) 浜津 哲也 (一般社団法人 日本ろう者サッカー協会) 日比野 暢子 (桐蔭横浜大学)
監事	樽本 哲 (弁護士) 奥村 武博 (公認会計士)

社員構成

特定非営利活動法人 日本アンプティサッカー協会
一般社団法人 日本CP サッカー協会
特定非営利活動法人 日本ソーシャルフットボール協会
特定非営利活動法人 日本知的障がい者サッカー連盟
一般社団法人 日本電動車椅子サッカー協会
特定非営利活動法人 日本ブラインドサッカー協会
一般社団法人 日本ろう者サッカー協会

所在地

〒112-0004 東京都文京区後楽1丁目4-18 トヨタ東京ビル

公式サイト

<https://www.jiff.football>

公式SNS

Facebook	https://www.facebook.com/jiff.football/
X	https://x.com/JIFF_Football
Instagram	https://www.instagram.com/jiff_football/

障がい者サッカーに関する相談窓口 **03-3818-2031**(平日10:00～17:00)

財務報告

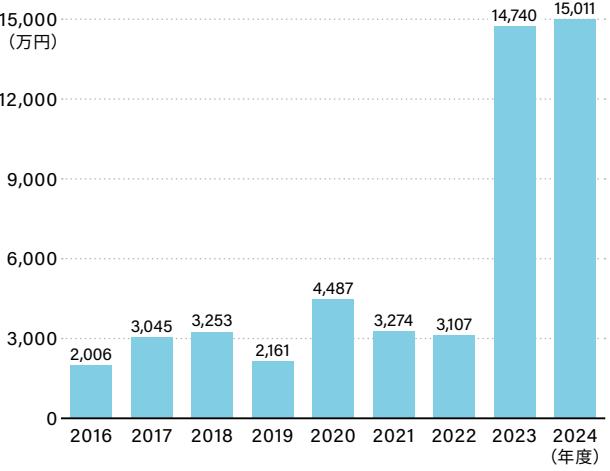
2024年度は、障がい者サッカー日本代表による国内での強化および普及の機会を創出するため各団体との連携を深め、公式国際大会開催に向けた資金確保、有料化・運営サポート等に取り組みました。事業面では、「インクルーシブフットボールフェスタ」「障がい者サッカーチャレンジひろば」「教育プログラム」等の既存事業の深化に加え、サッカー界による「アクセス・フォー・オール宣言」をもとに、「する」「見る」「関わる」の観点から事業を整理し、観戦環境整備の新たな取り組みや、障がい者雇用に関する新事業の準備を進めることができました。事業拡大に合わせて、新たなパートナー企業および事業協賛企業を迎えることができました。

2025年度は、引き続き先行き不透明な経済状況が見込まれますが、7団体との連携をさらに深め、包括的かつ横断的な取り組みを展開していきます。また、パートナー企業や自治体等との価値共創を一層推進し、皆様からのご支援のもとで財源の安定化を図りながら、共生社会の実現に向けた事業を着実に進めてまいります。

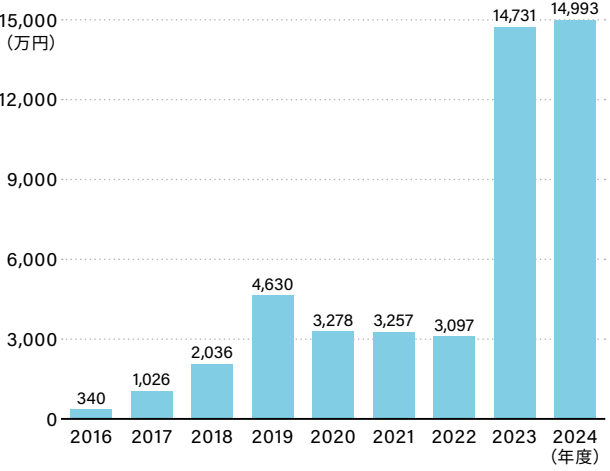
活動計算書 2024年4月1日～2025年3月31日 (単位:円)

	科目	金額
経常収益	受取会費	正会員受取会費 700,000
	受取寄附金	受取寄附金 9,034,420
	受取助成金等	受取国庫助成金・受取民間助成金 530,000
	事業収益	組織基盤強化事業収益 103,400,709
		コミュニケーション推進事業収益 2,253,454
		フットボール連携事業収益 4,392,850
		地域共創事業収益 12,857,682
その他の収益	ファンドレイジング等収益	16,900,908
	その他の収益	48,768
経常収益 計		150,118,791
経常費用	事業費	人件費 10,328,684
		その他経費 120,954,906
	管理費	人件費 10,328,691
		その他経費 8,327,687
経常費用 計		149,939,968
当期経常増減額		178,823
経常外費用		87,944
経常外費用 計		87,944
当期経常外増減額		▲ 87,944
税引前当期正味財産増減額		90,879
法人税、住民税及び事業税		70,000
前期繰越正味財産額		36,232,062
次期繰越正味財産額		36,252,941

収入推移



事業別支出推移



貸借対照表 2025年3月31日現在 (単位:円)

科目			金額	科目			金額
資産の部	流動資産	現金預金	132,779,921	負債の部	流動負債	未払金	1,062,781
		立替金	67,640			未払法人税等	70,000
		未収入金	9,857,082			未払消費税等	2,749,400
		前払費用	1,287,750			預り金	186,249
						仮受金	153,670
				前受収益	103,517,352		
			流動負債	計	107,739,452		
			負債の部 合計		107,739,452		
			正味財産の部	前期繰越正味財産額	36,232,062		
				当期正味財産増減額	20,879		
流動資産	計	143,992,393	正味財産の部 合計		36,252,941		
資産の部 合計		143,992,393	負債及び正味財産 合計		143,992,393		

第三者評価について

JIFFでは、適切な情報開示と透明性の確保を目的に公益活動に関する情報公開の推進や評価・認証を行う一般財団法人非営利組織評価センター (JCNE) による第三者組織評価を受け、2023年11月16日付でベシック評価基準23項目において基準を満たしている評価をいただきました。



個人で応援できること



「JIFFサポート会員」になる

サッカーを通じた共生社会の実現に向け、
活動のサポーターとなる個人の継続寄付会員

日本障がい者サッカー連盟(JIFF)は、個人の継続寄付会員制度として「JIFFサポート会員」を募集しています。月1,000円からの入会が可能であり、いただいたご寄付は、すべて障がい者サッカーの普及・発展および共生社会の実現に向けた活動に充てさせていただきます。

JIFFサポート会員特典

- JIFF年次報告書(毎年8月頃に送付)
- JIFF主催イベントの優先申込権 ほか
- JIFFノベルティグッズ

※特典は変更となる場合がございます。



▶ 入会方法・詳細

<https://www.jiff.football/special/kifu-2021/>



Vポイントで寄付する

障がい者のスポーツ参画を応援する

障がいの有無にかかわらず一緒にスポーツを楽しみ、高め合う社会をつくるには、障がい者が選手としてだけでなく、指導者や審判員としてもチャレンジできる機会をつくる必要があります。講習会等において手話通訳等のアクセシビリティ対応を進めることで、より多く学びの機会を提供できるようになります。本寄付金は「JIFFアクセシビリティ補助制度」により、講習会や研修会の主催者のアクセシビリティ費用に使用されます。1円からの寄付、Vポイント1ポイントからの寄付が可能です。



▶ ご寄付のご案内

<https://www.jiff.football/join/support/>



読み終えた本で寄付する

障がい者サッカー全体を支援する

不要になった古本やDVD、ゲーム、デジタル家電等を寄贈していただき、その買い取り額相当がJIFFに寄付される仕組みです。古本買取専門店「本棚お助け隊」が提供するファンドレイジング支援プログラムであり、回収用のダンボールは無料で、ゆうパックで全国無料集荷も可能です。また、郵便局やローソンから気軽に発送できます。



一般社団法人
日本障がい者サッカー連盟

ANNUAL
REPORT 2024

年次報告書2024／2025年7月発行
©2025 Japan Inclusive Football Federation